

SARS-CoV-2 術前スクリーニングPCRに関するアンケート調査

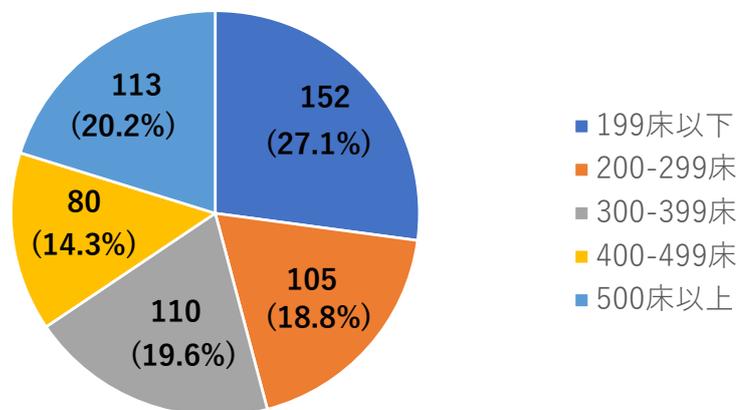
日本外科学会 コロナウイルス対策委員会

委員長 池田徳彦

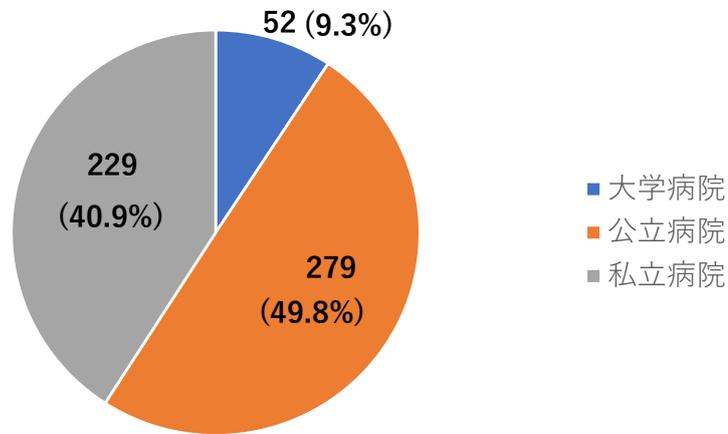
アンケート対象者：日本外科学会認定施設 事務連絡指導責任者

回答数：560

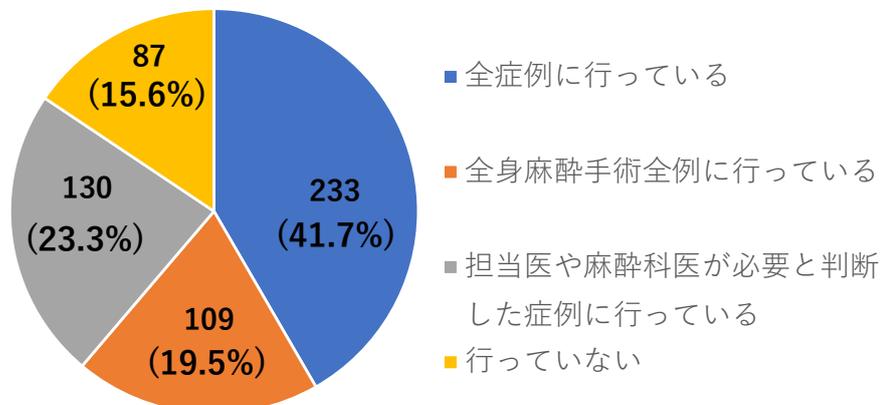
病院規模の分布（病床数）



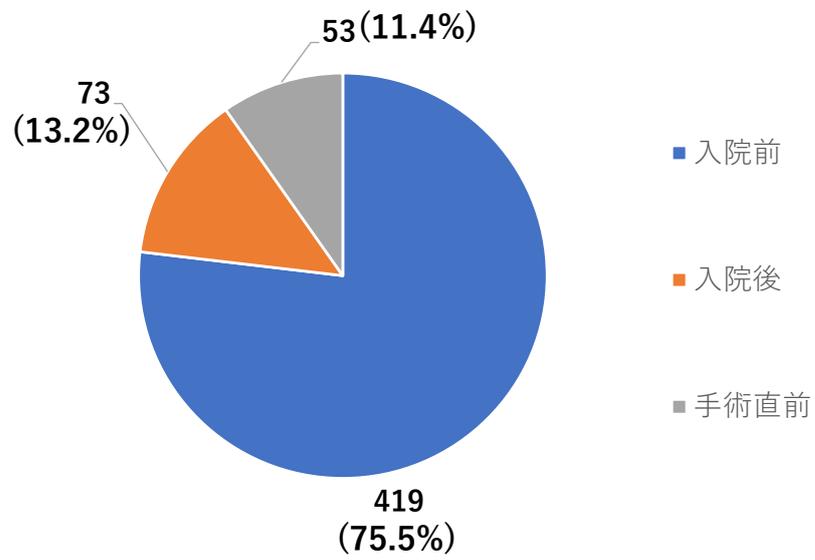
病院の種類



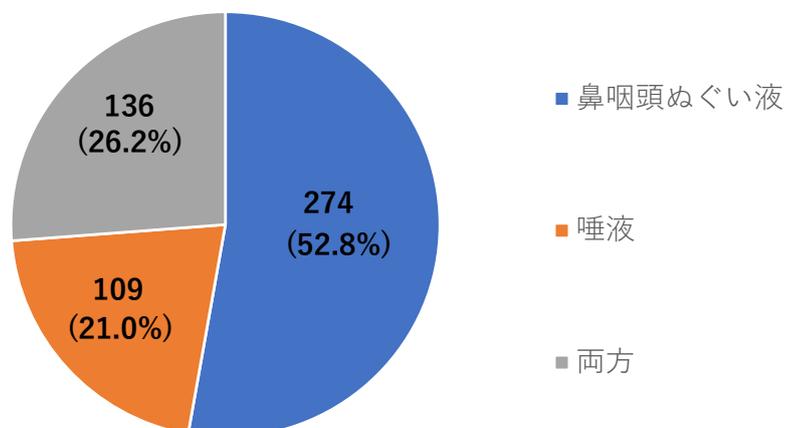
術前スクリーニングPCRを行っていますか？



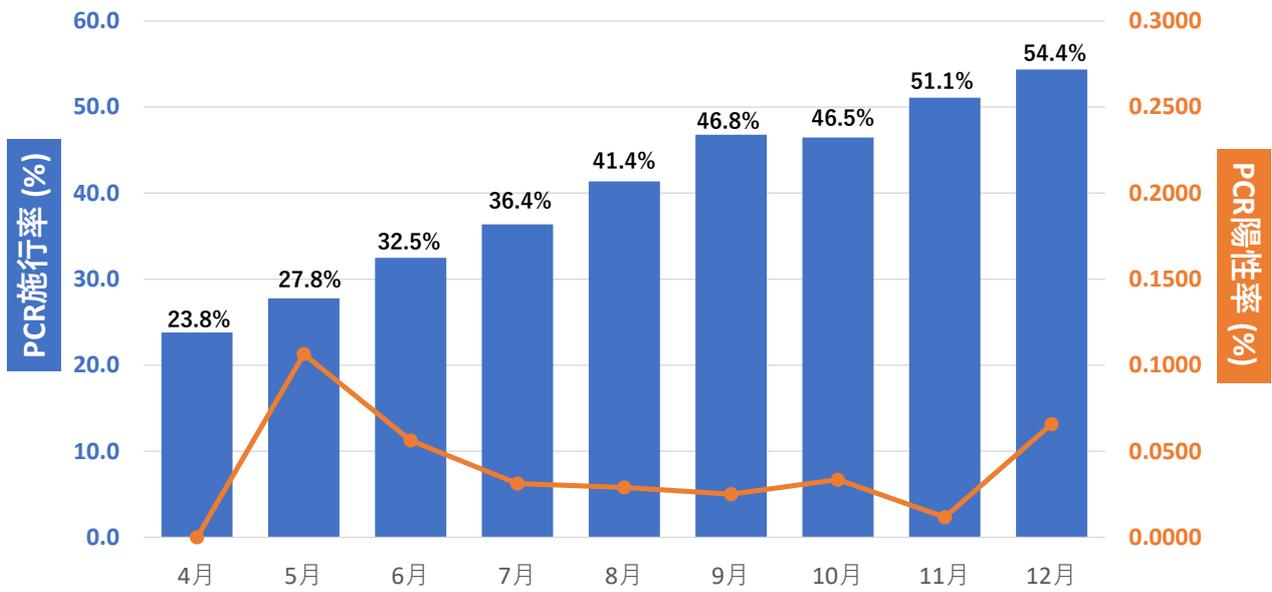
術前スクリーニングPCRのタイミングは？



PCRの検体の種類は？

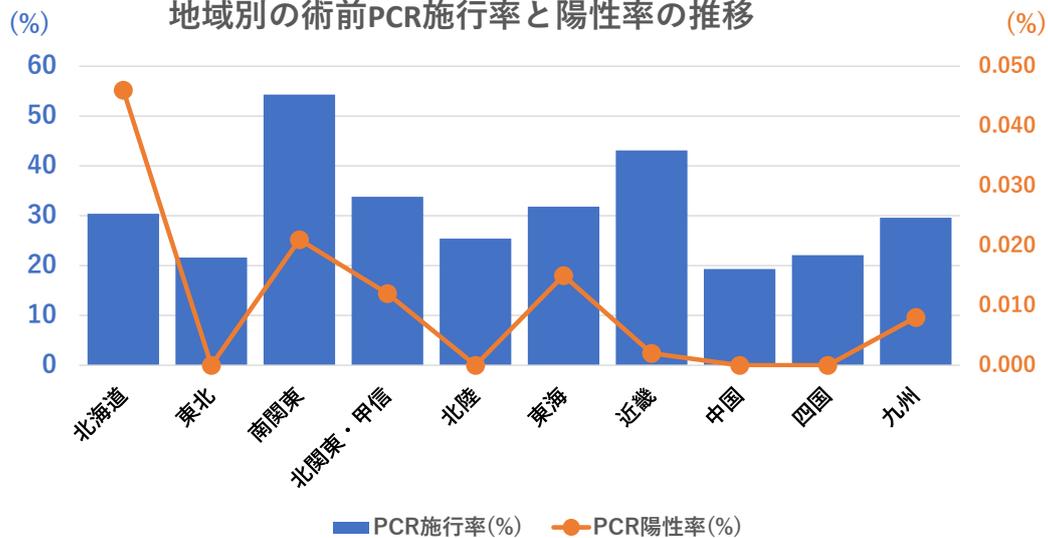


全身麻酔手術における術前PCR施行率と陽性率の推移

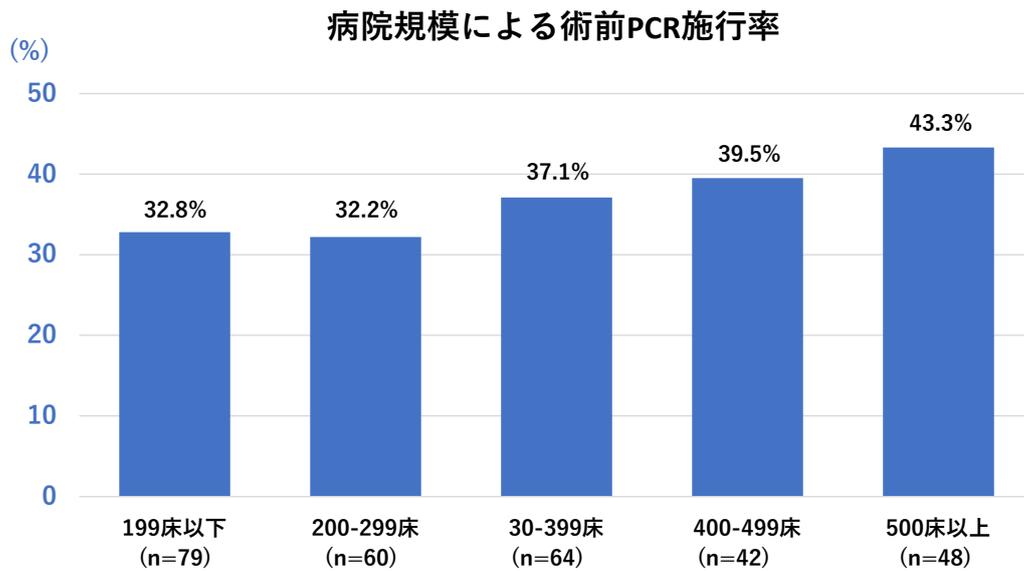


4月以降COVID-19流行の広がりとともに、術前PCR検査施行率が上昇している。陽性率に関しては調査期間中に変化なし。

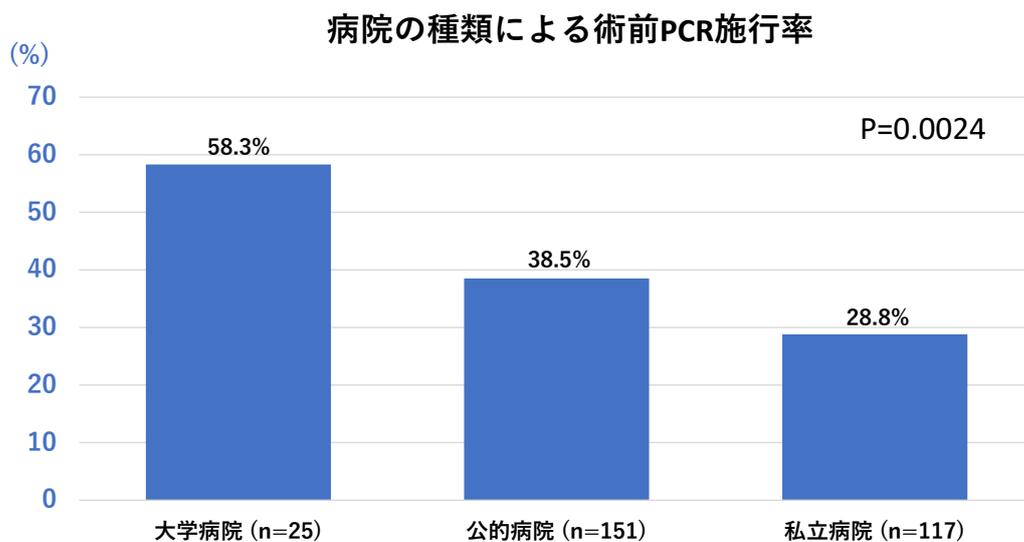
地域別の術前PCR施行率と陽性率の推移



南関東地方や近畿地方などコロナ流行地域において術前PCR施行率が高い。



病院規模により術前PCR施行率に若干の差はあるものの有意差はない。



大学病院での術前PCR施行率が有意に高い。自施設での検査が可能であるためか？

- ✓ 術前スクリーニングPCR陽性率

23例 / 61,042 例 = **0.038%**

(1施設あたり最大4件の陽性あり)

- ✓ 術後退院までにPCR陽性が確認された症例数

19例

術前に陽性であった23例、術後に陽性が確認された19例の転機について詳細は不明。

まとめ

1. アンケート回答数は560。
2. 術前スクリーニングPCRを行っている施設（全症例もしくは全身麻酔全症例）は61.2%であった。
3. 術前スクリーニングPCRのタイミングは、入院前が最多(71.5%)であった。
4. PCRの検体は、鼻咽頭ぬぐい液が52.8%、唾液が21.0%と鼻咽頭ぬぐい液が半数以上をしめていた。
5. 4月以降COVID-19流行の広がりとともに、術前PCR検査施行率が上昇していた（4月：23.8%→12月：54.4%）。
6. 南関東地方や近畿地方などコロナ流行地域において術前PCR施行率が高かった。
7. 大学病院（58.3%）での術前PCR施行率が有意に高かった。
8. 術前スクリーニングPCR陽性率は0.038%（23 / 61,042）であった。
9. 術後退院までの期間で19例にPCR陽性が確認されていた。

今後、術前スクリーニングPCR検査の意義の検証とともに、周術期陽性患者（術前23例、術後19例）の転機について調査が必要と考えられた。